

自治体ネットワーク向け Microsoft 365への接続ソリューション

Microsoft 365に直接接続を可能にするIIJのネットワークサービスとクラウドサービス活用を最適化する「A10 Thunder」で、自治体の3層ネットワークから通信を実現

● 課題

- ▶自治体ネットワークではインターネットとの通信が制限されている。
- ▶自治体職員の業務が行われるLGWAN系セグメントは外部との通信回線がないため、クラウドサービスを利用できない。
- ▶新たに回線を敷設する場合も、特定クラウドサービス以外に疎通性があってはならない。

● 解決策

- ▶特定クラウドを対象とした通信を適切に制御するために、専用機器でMicrosoft 365宛での通信の識別を行う。
- ▶Microsoft 365宛の通信を外部ネットワークとは分離された専用回線にオフロードする。

● メリット

- ▶Microsoft 365以外の通信が外部に出ないように、宛先リストにもとづいたポリシーを適用できる。
- ▶専用回線はMicrosoftのクラウドにしか接続されておらず、意図しないネットワークに対し通信が行われるリスクがない。
- ▶セキュリティクラウドを通るべき一般のWeb通信とトラフィックを分離できるため、通信の輻輳を回避できる。

αモデル、βモデル どちらにも存在する通信課題

自治体においてMicrosoft 365の活用が進んでいる一方で、通信については自治体ならではの課題があります。

特に、LGWAN接続系に業務端末を置くαモデルの場合、LGWAN接続系から外部ネットワークに通信することは認められていません。そのため、Microsoft 365のような特定のクラウドサービスに対する通信においては、宛先を適切に特定することでトラフィックを制御する必要があります。

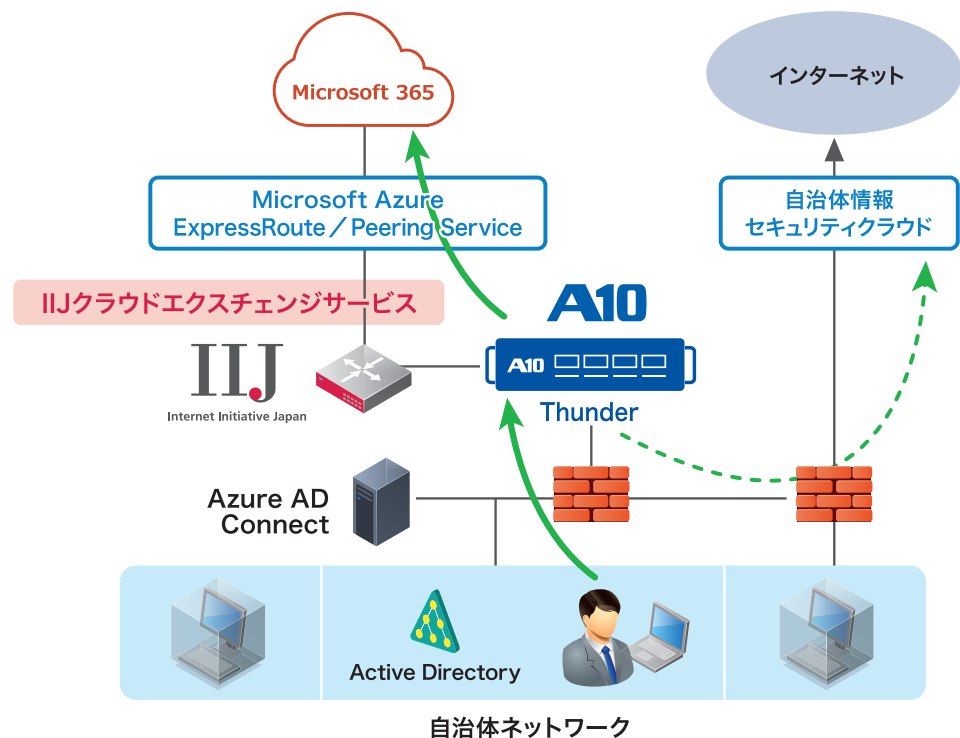
なお、インターネット接続系に業務端末を移すβモデルであっても、Microsoft 365やMicrosoft Teamsを快適に使うには、十分な帯域を確保した回線が必要です。そのため、高品質な通信のオフロード回線が求められます。

Microsoft 365専用回線と専用機器による解決

不正な通信リスクを回避するには、Microsoftネットワークに直接接続するMicrosoft Azure ExpressRouteやPeering Serviceといった専用回線を導入します。これにより、Microsoft 365のみに通信でき、それ以外のネットワークには繋がらないという通信環境を実現できます。

Microsoft 365宛とその他の通信の振り分け制御については、ドメイン名にもとづいたトラフィック制御が可能な機器「A10 Thunder」を利用することで解決できます。

更に、Microsoft 365への専用線接続に「A10 Thunder」と「IIJクラウドエクスチェンジサービス」を組み合わせることで、自治体のポリシーに沿ったクラウド利用が可能になります。



Microsoft 365向け通信の確実な振り分けとセキュアな通信経路を実現する A10ネットワークスのクラウドアクセスプロキシソリューション

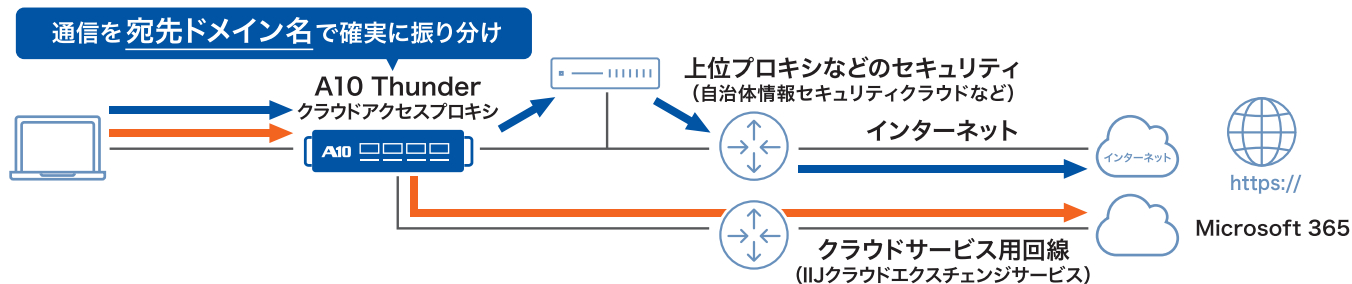
Microsoft 365向けの通信を特定の回線に確実に振り分け

Microsoft 365などのクラウドサービスの宛先はwww.office.comなどのドメイン名で定義されており、そのドメイン名が対応するIPアドレスは頻繁に変わるため、宛先IPアドレスによる確実な通信制御は困難です。

A10 Thunderによるクラウドアクセスプロキシソリューションを用いると、Microsoft 365向けのトラフィックをドメイン名にもとづいて特定の回線に確実に振り分けることができます。Microsoft 365のサービスの追加・

変更や削除に伴うドメイン名の変更にも動的に対応できます。また、Microsoft 365の各サービスは非常に多くの通信セッションを発生させますが、A10 Thunderはこれらを処理可能な高い性能を持ちます。

更に、特定のサービス以外の通信をドメイン名にもとづいて止めることもでき、自治体ネットワーク上にある端末からMicrosoft 365やWindows Updateへのアクセスのみを許可するような通信制御も可能です。



セキュアな通信経路を実現

自治体からMicrosoft 365への通信を許可した場合、利用すべきではないアカウント(個人アカウントや別の組織のアカウントなど)でもMicrosoft 365にログインできてしまうセキュリティ上の問題があります。

A10 Thunderのテナント制限機能によって、自治体ネットワーク内の端末から利用できるアカウントを制限できます。この機能を通信制御と併せて利用することで、自治体内のアカウントのみで利用できるMicrosoft 365へのセキュアな通信経路を実現できます。

クラウドアクセスプロキシソリューションと併せてA10 Thunderで利用できる機能



- 認証基盤と連携したユーザー認証やそれにもとづく通信制御
- アクセスログの保管
- SSL/TLS 通信の復号と多様なセキュリティ機器との連携
- URL フィルタリングや脅威インテリジェンスによる不正サイトへのアクセス制限
- L4/L7のファイアウォール機能 ● IPsec-VPN 機能 など

A10ネットワークス株式会社について

A10 Networks(NYSE: ATEN)は、サービス事業者、クラウド事業者及び企業で利用される5Gネットワークやマルチクラウドアプリケーションのセキュリティを確保します。高度な分析や機械学習、インテリジェントな自動化機能により、ミッションクリティカルなアプリケーションを保護し、信頼性と可用性を担保します。A10 Networksは2004年に設立されました。米国カリフォルニア州サンゼに本拠地を置き、世界117か国のお客様にサービスを提供しています。

A10ネットワークス株式会社はA10 Networksの日本子会社であり、お客様の意見や要望を積極的に取り入れ、革新的なアプリケーションネットワークングソリューションをご提供することを使命としています。
ホームページ: www.a10networks.co.jp

Microsoftクラウドサービスとオンプレミス環境をダイレクト接続する IIJクラウドエクスチェンジサービス

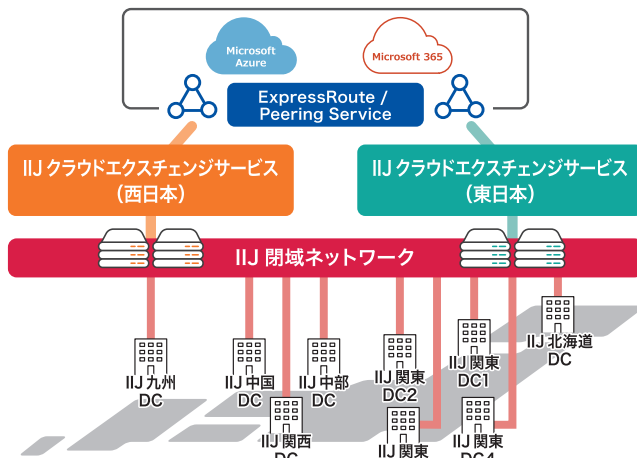
特長

- 国内に9カ所のアクセスポイントをご提供。お客様の拠点から指定のアクセスポイント(IIJデータセンター)に接続することで、Microsoft AzureやMicrosoft 365などに直接接続が可能。
- 帯域が保証され、安定した快適な通信環境を実現。
- Microsoft Azure ExpressRouteのサブスクリプション利用料金や技術的な設定・運用を含めて、ワンストップ提供することが可能。

株式会社インターネットイニシアティブについて

IIJは創業以来、社会の需要を先取りし、革新的な技術を標準化して、多くのネットワークサービスを世の中に送り出してきました。現在、IIJグループのサービスは、官公庁や大手・中堅企業を中心に約13,000社のお客様に導入され、その信頼性に高い評価をいただいています。

ホームページ: www.iij.ad.jp



Learn More

About A10 Networks

お問い合わせ

a10networks.co.jp/contact

A10ネットワークス株式会社

www.a10networks.co.jp

a10networks.co.jp/contact

©2022 A10 Networks, Inc. All rights reserved. A10 ロゴ、A10 Networksは米国およびその他の各国におけるA10 Networks, Inc. の商標または登録商標です。その他上記の全ての商品およびサービスの名称はそれぞれ各社の商標です。A10 Networks は本書の誤りに関して責任を負いません。A10 Networks は、予告なく本書を変更、修正、譲渡、および改訂する権利を留保します。製品の仕様や機能は、変更する場合がございますので、ご注意ください。商標について詳しくはホームページをご覧ください。www.a10networks.com/a10-trademarks

Part Number: A10_SB_IIJ_LocalGovernment